

教科	地理歴史科	科目	歴史総合	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』（山川出版社）						
副教材等	なし						

1 授業及び学習の方法等

- ・現代的な諸課題の形成とその解決の視点から近現代の歴史を考察する学習を行う。
- ・近現代の歴史を、近代化、大衆化、グローバル化という3つの視点からとらえ、それぞれがまとまりをもつように授業を展開する。
- ・資料を活用し考察する学習活動を行い、「問い」を中心に構成した授業を展開する。
- ・歴史的な見方・考え方（社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること）に基づく学習活動を行う。

2 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査や小テストにおける知識・技能問題をもとに評価する。	定期考査や小テストにおける資料読み取りなどの思考・判断・表現問題や、パフォーマンス課題などから総合的に評価する。	提出物、個人・ペア・グループによる意見交換および発表、パフォーマンス課題などから総合的に評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容（項目）	主な評価規準
前 期 中 間	A 歴 史 の 扉	1. 歴史と私たち 2. 歴史の特質と資料	1a：私たちの生活や身近で起こる諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解している。b：近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。c：身近な題材に対して自身で「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。 2a：資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。b：複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。c：資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。

前期期末	B 近代化と私たち	<p>1. 近代化への問い</p> <p>2. 結びつく世界と日本の開国</p> <p>3. 国民国家と明治維新</p> <p>4. 近代化と現代的な諸課題</p>	<p>1a：諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて理解している。b：近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを表現している。</p> <p>2a：18世紀のアジアの経済と社会、産業革命後の工業化と中国・日本の開国後の世界市場の形成について理解している。b：諸資料の読み取りを通して、18世紀のアジア諸国の経済活動やアジア地域間の関係やアジアと欧米諸国間の関係について考察し、問いを表現している。</p> <p>3a：立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解している。b：諸資料の読み取りを通して、明治維新や国民国家の特徴、社会の変容、帝国主義の特徴、列強間の関係の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>4a：現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している。b：近代化と現代的な諸課題について考察し、問いを表現している。</p> <p>1-4c：個人で、次に周囲と協働しながら、授業中のさまざまな「問い」の解決に向けて努力している。</p>
	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	<p>1. 国際秩序の変化や大衆化への問い</p> <p>2. 総力戦と社会運動</p> <p>3. 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>4. 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p>	<p>1a：地図や統計、絵画、文書など様々な資料から、情報を読みとったりまとめたりする技能を身につけている。b：国際秩序の変化や大衆化に伴う社会の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>2a：総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりについて理解している。b：第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴について、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連について考察し、問いを表現している。</p> <p>3a：世界恐慌後の国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解している。b：各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係について考察し、問いを表現している。</p> <p>4a：現代的な諸の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。b：国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題について考察し、問いを表現している。</p> <p>1-4c：大衆化にともなう生活や社会の変化について、自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>
後期期末	D グローバル化と私たち	<p>1. グローバル化への問い</p> <p>2. 冷戦と世界経済</p> <p>3. 世界経済の変容と日本</p> <p>4. 現代的な諸課題の形成と展望</p>	<p>1a：資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能が身につけている。b：グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>2a：第二次世界大戦後の国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について理解している。b：第二次世界大戦後の地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソ連の政策転換の要因、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>3a：石油危機後の市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題について理解している。b：市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割について考察し、問いを表現している。</p> <p>1-3c：大衆化にともなう生活や社会の変化について、自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>4a：歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。b：現代的な諸課題の形成と展望について、原因と結果、日本と外国の比較など多面的・多角的に考察し、問いを表現している。c：より良い社会の実現を視野に歴史的な見方・考え方をいかそうとしている。</p>

※ 表中の観点について a：知識・技能，b：思考・判断・表現，c：主体的に取り組む態度 である。

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	新地理総合(帝国書院)						
副教材等	最新地理図表 GEO(第一学習社)、 データブック・オブ・ザ・ワールド 2024(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校「社会」やこれまでの学習を踏まえ、多面的・多角的に現実を見据えた社会づくりを構想する。 ・習得した地理的技能や知識を以後の学習に活用する。 ・地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的を通じて学習をする。 ・各地域の生活文化の網羅・羅列ではなく、主題と事例地域とを適切に組み合わせた学習をする。 ・自他の文化を尊重して国際理解を図ることの重要性を学ぶ。 ・地球的課題はSDGsの17の目標とも関連付けて学習する。 ・世界各地の自然災害を踏まえての、自然環境や防災に関する学習をする。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ・地図やGISを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ・地理的な事象を多面的・多角的に考察する力、地理的な課題の解決に向けて構想する力、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養い、地理的な課題を主体的に解決しようとする態度を育成する。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観点の趣旨	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている面と、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする面を評価する。
評価方法	ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題、知識の概念的な理解を問う問題など)	ペーパーテストの論述だけでなく、レポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現などを集めたものを評価する。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価・相互評価等の状況の評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	地図でとらえる現代世界	地図でとらえる現代世界 地図と地理情報システム 1.地球上の位置と時差 2.地図の役割と種類 結び付きを深める現代世界 3.現代世界の国家と領域 4.グローバル化する世界	1a,2a: 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などをもとに, 方位や時差について理解している。 2b: 現代世界の地域構成について, 位置や範囲などに着目して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。 2c: 地図やGISと現代世界について, よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 3a,4a: 日本の位置と領域, 国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 3c,4c: 今後の学習で地図やGISを意欲的に活用しようとしている。
		国際理解と国際協力 世界文化の多様性と国際理解(生活文化の多様性) 5.世界の地形と人々の生活 6.世界の気候と人々の生活 7.世界の言語・宗教と人々の生活	5a, 6a: 世界の自然環境(地形や気候など)について理解している。 5b, 6b: 自然・社会環境に着目して, 生活の多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察している。 7a: 主な宗教や言語のおおよその分布とその歴史的背景について理解している。 7c: 世界の人々が共存するために必要なことについて予想したり課題を見いだそうとしたりしている。
後期中間	国際理解と国際協力	世界文化の多様性と国際理解 8.歴史的背景と人々の生活 9.世界の産業と人々の生活 10.地球的課題と国際理解 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口・食糧問題 ・都市・居住問題	8b: 歴史的背景をふまえて, 多様な生活文化をもつ人々の生活やその変化の要因などを多面的・多角的に考察している。 9a: 産業がそこに住む人々に影響を与え, 多様であることを理解している。 10c: これまでの学習を振り返り, 多様な習慣や価値観をもつ人々と国内外で共存するために必要なことについて自分の考えをもとうとしている。
後期末	持続可能な地域づくり	持続可能な地域づくりと私たち 11. 自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え 12. 生活圏の調査と地域の展望	11a: 生活圏のハザードマップから, 想定される自然災害とその危険度の高い地域を読み取っている。 11b: これまでの学習で身に付けた知識を関連付け, 多面的・多角的に考察し仮説を設定している。 12a: 新旧地形図などの読図や, 文献資料の読み取りから, 必要な情報を収集し, 適切にまとめている。 12b: 生活圏の自然及び社会的条件との関わり, 持続可能な地域づくりなどに着目して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。 12c: 学んだことを実生活に適用しようとしたり, これからの学習に意欲的に取り組もうとしたりしている。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	『詳述公共』（実教出版）						
副教材等	『最新 公共資料集 2024』（第一学習社）						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・人間社会の基礎的な教養を会得し、基本的な概念や政治や経済の基本構造への理解を深める。 ・授業およびさまざまな資料を通じて、現代社会の事象について、多面的かつ多角的に捉えて考察する力を身に付ける。 ・自ら課題を発見し、それを明らかにするための手法を身に付け、アウトプットできる能力を涵養する。
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸課題を捉えて考察していくために必要な知識を深め、判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、人類の平和と繁栄を図ることの意味や各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さを養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の諸課題を考察し、さまざまな概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにしている。	現実社会の諸課題の解決に向き合い、その判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間とは何かという基本的原理を活用して、事実に基づいて多面的かつ多角的に考察し、思考を働かせながら議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察と深い理解を通して、自らの知識が涵養され、そこから得られる自らの考えを主体的に取り組む姿勢が見られる。
評 価 方 法	定期考査(知識・技能)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	定期考査(思考・判断・表現)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	コメントカードやレポートなどの記述、授業への取り組み姿勢より、総合的な評価を行う。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	公共の扉	1. 社会を作る私たち 2. 人間としてよく生きる 3. 社会とは何か 4. 民主国家における基本原理	1a: 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体的な自分を目指し、青年期という時期や職業、国際的な視点を通じて自らの在り方を理解している。 2a: ギリシャ哲学から三大宗教、近代ヨーロッパや現代の思想について理解している。 3b: 現代社会における人間の尊厳や自由、平等、権利について深く捉え、さ原津や偏見を是正する方法について考察する。 4a: 民主政治の諸原理や各国の政治制度、議院内閣制、大統領制といった政治制度について理解する。
前期期末	よりよい社会の形成に参加する私たち	5. 日本国憲法の基本的性格 6. 日本の政治機構と政治参加 7. 現代の経済社会 8. 経済活動のあり方と国民福祉	5a: 法や規範の意義及び役割によって社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 6a: よりよい社会は、憲法の下で個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていることを理解している。 7b: 資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割、需要と供給、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性といった経済学の理論を理解し、現代の社会経済について深く考察できる。 8bc: 消費者の権利、社会保障制度、労働と環境について将来に役立つ見識を持ち、戦後の日本経済を深く理解しながら、社会の実状について理解が深められている。
後期中間		9. 国際政治の動向と課題 10. 国際経済の動向と課題	9bc: 国内政治や国内法との比較を通じて領土問題などの諸問題について考察している。また、国際連合の役割や冷戦終結後の国際社会について学びながら、軍備競争と軍備縮小の原理について人間の安全保障について考察している。 10bc: グローバル化した社会での貿易の仕組みや国際経済の進展についてや方法論について考察している。
後期期末	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	11. 社会的な課題の発見 12. 情報収集と読み取り 13. 課題の研究 14. 自分の考えの説明・論述 15. さらなる探究に向けて	11bc: よりよい社会を目指すための課題発見について取り組んでいる。 12ab: 正しい情報収集の方法と活用に取り組んでいる。 13bc: 実際に自ら課題に取り組み倫理的に構築している。 14bc: 取り組んだ課題についてアウトプットができる。 15bc: さらに深い探究活動について、どのようなことが必要かを考察している。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	地歴・公民	科目	日本史探究	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』(山川出版社)						
副教材等	『図説 日本史通覧』(帝国書院) 『新日本史要点ノート 応用編 新課程版』(啓隆社)						

1 授業及び学習の方法等

講義形式が中心となるが、その場合にもICTを活用し、教員と生徒、生徒と生徒との間で対話的な学びになるよう留意し、双方向のやりとりができるしかけを取り入れる。単元ごとにペアワークやグループワーク実施するほか、各種資料の読み解きや論述を含む問題演習を通じて歴史的思考力を培うよう努める。

2 学習の到達目標

- (1)日本の歴史や文化を、世界との関わりのなかで理解し、異文化や多様な歴史認識への理解を深め、それらを尊重する態度を身につける。
- (2)様々な資料からその内容を合理的・批判的に読み取る作業を通じて、歴史的思考力を培う。歴史的事象を多面的・多角的に考察し、複数の解釈が成立することに気づき、解釈の根拠や論理を説明することができる。
- (3)各時代の特色を理解し、時代間の比較を通じて、時代の転換について考察することができる。時代の転換を理解し、各時代の画期を表現することができる。
- (4)歴史上の諸事象を、因果関係や影響力、相互関係といった観点から考察し表現することができる。他の事象との因果関係や、時間の推移に伴う変化などを論理的に考察し、その意義や意味を解釈する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	定期考査／小テスト／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／ふりかえり(自己評価)／発表・レポート提出

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	原始・古代	1.日本文化のあけぼの 2.古墳とヤマト政権	a:日本列島における原始・古代の各文化の成立とその変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 b:考古遺物や歴史書の特徴をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について、多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 c:中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。
前期期末	古代	3.律令国家の形成 4.貴族政治の展開	a:隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 b:国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 c:東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。
後期中間	中世	5.院政と武士の躍進 6.武家政権の成立	a:諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 b:武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。
後期期末	中世	7.武家社会の成長	a:鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 b:南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	2単位	年次	2年
使用教科書	詳説世界史(山川出版)						
副教材等	新世界史要点ノート(啓隆社出版) 最新世界史図説タペストリー(帝国書院)						

1 授業及び学習の方法等

- ・現代社会における諸問題との関連付けを意識して学習を行う。
- ・歴史的事実を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士の因果関係や同根性などを関連付けた学習活動を行う。
- ・資料を活用し考察する学習活動を行う。
- ・「問い」を中心に構成した授業を展開する。
- ・資料を活用し考察する学習活動を行う。

2 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	ペーパーテストの知識・技能問題をもとに評価を行う。	ペーパーテストの思考・判断・表現問題やパフォーマンス課題の内容などから総合的に評価する。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	諸地域の歴史的 特質の形成	1. 文明の成立と古代文明の特質 2. 中央ユーラシアと東アジア世界 3. 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1a: 自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、諸文明誕生の基礎について理解している。 2b: 統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現している。 3b: 東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現している。
		4. 西アジアと地中海周辺 の国家形成 5. イスラーム教の成立と ヨーロッパ世界の形成 6. イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	4a: 民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解している。 5c: イスラーム教の成立と拡大及びヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 6a: イスラーム化が中央アジアにもたらした変化及びトルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について理解している。
後期 中間	諸地域の結合・ 変容	7. ヨーロッパ世界の変容と展開 8. 東アジア世界の展開と モンゴル帝国 9. 大交易・大交流の時代	7b: ①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 8a: 10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景及びモンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に理解している。 9c: ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
後期 期末	地球世界の課題	10. アジアの諸帝国の繁栄 11. 近世ヨーロッパ世界の動向	10a: アジア諸帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 11a: 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	『政治経済』（東京書籍）						
副教材等	『最新 政治・経済資料集 2024』（第一学習社）						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・政治経済の基本的な教養を深め、世界と日本の政治や経済について理解を深める。 ・授業およびさまざまな資料を通じて、世界の政治と経済、日本の政治と経済についての理解を身に付けさせ、世界における諸問題や、戦後以降の日本社会の歴史時や実状について、多面的かつ多角的に捉えて考察する力を身に付ける。 ・未来の国際社会や国際経済、日本の社会経済はどうあるべきかについて、主体的に考える力を身に付け、そこから得られた考えを論理的に構築していく。
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・国家および社会の形成者として必要な判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、社会の在り方などについて構想する力を身に付けて、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 ・よりよい社会の実現のために、現実社会の諸課題を主体的にさまざまな課題解決しようとする態度を養うとともに、日本および国際社会において国家および社会の形成において積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界と日本の政治と経済の基本的な概念を理解し、現代の世界と日本がどのような状況であり、さまざまな諸問題についての知識を深めている。	現代においても絶えない世界各地での紛争や貧困について、日本社会における少子高齢化や人口減少といった諸問題に向き合い、その要因について深く理解し、考察している。	教養として得られた知識を駆使して、物事を客観的に判断し、自らの考えや立場について、主体的に取り組める姿勢がある。
評 価 方 法	定期考査(知識・技能)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	定期考査(思考・判断・表現)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	コメントカードやレポートなどの記述、授業への取り組み姿勢より、総合的な評価を行う。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	現代日本の政治と経済	1. 現代日本の政治 民主政治の基本原則・日本国憲法の基本原則・日本の政治機構・現代政治の特質と課題	1ab: 現代日本の政治・経済に関わる現実の社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。
		2. 現代日本の経済 現代の資本主義経済・現代経済のしくみ・日本経済の発展と現状・福祉社会と日本経済の課題 3. 現代日本の諸課題 少子高齢化社会における社会保障・地域社会の活性化・多様な働き方・生き方の実現・中小企業の意義と課題・日本の財政の健全化・持続可能な食料・農業の実現・防災と安全・安心な社会の実現	2ab: 経済の連理的な仕組みや、日本経済の特徴について理解している。 3bc: 現代日本の諸課題を探究することを目的として、日本社会の喫緊の課題である少子高齢化や人口減少、それにかかわる社会保障制度についてなどに理解を深め、現代の日本社会が抱える社会経済的な諸問題について考察している。
後期 中間	グローバル化する国際社会	4. 現代の国際政治 国際政治のしくみ・複雑化する国際政治と日本・国民経済と国際経済・世界経済の現状と課題	4bc: 国際的な視野から見た政治や経済に関わる社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について深く理解している。
後期 期末		5. 国際社会の諸課題 国民経済と国際経済・世界経済の現状と課題	5bc: 国際社会におけるさまざまな諸問題について探究する姿勢があり、これまでの教養を駆使して、世界と日本の状況を考察している。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	『倫理』（東京書籍）						
副教材等	『最新 公共資料集 2024』（第一学習社）						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学的な基本的な教養を深めつつ、世界的、時代を超えた物事への考えへの理解を深める。 ・ 授業およびさまざまな資料を通じて、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論を身に付ける。 ・ 未来の国際社会を生きる自らが、他者と共によりよく生きるために、いかに自己を形成すべきかという態度を養う。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 古今東西の幅広い人類の叡智である知的な蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べる技能を身に付ける。 ・ 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考力を養う。 ・ 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方について理解を深る。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	古今東西の幅広い知的な概念を学び、歴史的な哲学的思考や宗教、世界や日本の風土や文化を学び、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる点を理解している。	他者と共によりよく生きる自己の確立についてや良識ある公民としての広い視野に立つことの意義を知り、そこで考察したことなどを適切な方法で表現している。	人間尊重の精神と現代の倫理的課題についての探究的な態度がみられ、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。
評 価 方 法	定期考査(知識・技能)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	定期考査(思考・判断・表現)およびコメントカードやレポートの記述、発表など内容から評価を行う。	コメントカードやレポートなどの記述、授業への取り組み姿勢より、総合的な評価を行う。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	人間の心のあり方	1. 人間とは何か 2. 人間の心の働き	1a: 人間の特質や青年期の課題について理解している。 2ab: 認知、発達、個性について理解し、「心」とは何かについて考察している。
前期期末	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	3. 哲学すること 4. ギリシャの思想 5. 宗教と社会 6. キリスト教 7. イスラーム 8. 仏教 9. 中国の思想 10. 芸術	3a: 「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について理解している。 4~9ab: ソクラテスやプラトンといった代表的な歴史の哲学者についてや世界の三大宗教、日本に大きな影響を与えている中国の思想について理解し、考察している。 10ab: 美を求める心やそれが人生を豊かにするものであることを理解している。
後期中間	さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	11. 近代と人間尊重の精神 12. 近代思想の展開 13. 人格の尊厳と人倫の思想 14. 社会変革の思想 15. 理性への疑念 16. 人間観・言語観の問いなおし 17. 他者・自然とのかかわり	11 a: 西洋の近代化の特徴について理解している。 12a: ベーコンとデカルトの思想をはじめ、経験論と合理論、社会契約説について理解している。 13ab: カントやヘーゲルの思想について理解している。 14ab: アダム・スミス、ベンサムなどの倫理思想や社会主義思想、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想について理解している。 15a: キルケゴール、ニーチェ、フロイトの思想について理解している。 16a: イデッガー、ヤスパース、サルトルの思想について理解している。 17ab: 他者とどう関わるべきかについて考察している。
後期期末	国際社会に生きる日本人としての自覚	18. 儒教と日本人の思想形成 19. 国学の思想 20. 庶民の思想 21. 西洋思想と日本人の近代化 22. 国際社会に生きる日本人の自覚 23. 現代の諸課題と倫理	18~22bc: 日本人の自然観の特質や伝統的な行事を通りして、日本人の宗教観や倫理観、仏教や儒教の受容の過程、国学や庶民の学問の存在と西洋文化との接触過程について理解を深めて、現代日本について考察している。 23bc: これまでの学習から、生命・自然・科学技術・福祉・文化と宗教・戦争と平和について総合的な考察を行っている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	地歴・公民	科目	日本史探究	単位数	3単位	年次	3年
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』(山川出版社)						
副教材等	『図説 日本史通覧』(帝国書院) 『新日本史要点ノート 応用編 新課程版』(啓隆社) 『4ステージ演習ノート 日本史 新課程』(数研出版)						

1 授業及び学習の方法等

講義形式が中心となるが、その場合にもICTを活用し、教員と生徒、生徒と生徒との間で対話的な学びになるよう留意し、双方向のやりとりができるしかけを取り入れる。単元ごとにペアワークやグループワーク実施するほか、各種資料の読み解きや論述を含む問題演習を通じて歴史的思考力を培うよう努める。

2 学習の到達目標

- (1)日本の歴史や文化を、世界との関わりのなかで理解し、異文化や多様な歴史認識への理解を深め、それらを尊重する態度を身につける。
- (2)様々な資料からその内容を合理的・批判的に読み取る作業を通じて、歴史的思考力を培う。歴史的事象を多面的・多角的に考察し、複数の解釈が成立することに気づき、解釈の根拠や論理を説明することができる。
- (3)各時代の特色を理解し、時代間の比較を通じて、時代の転換について考察することができる。時代の転換を理解し、各時代の画期を表現することができる。
- (4)歴史上の諸事象を、因果関係や影響力、相互関係といった観点から考察し表現することができる。他の事象との因果関係や、時間の推移に伴う変化などを論理的に考察し、その意義や意味を解釈する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	定期考査／小テスト／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／ふりかえり(自己評価)／発表・レポート提出

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	中世・近世	1. 武家社会の成長 2. 近世の幕開け 3. 幕藩体制の成立と展開 4. 幕藩体制の動揺	a: 経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、多様な文化の形成や融合について理解している。 b: 中世から近世にかけての統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。
前期期末	近代	5. 近世から近代へ 6. 近代国家の成立 7. 近代国家の展開 8. 近代の産業と生活	a: 中央集権化の諸政策と、欧米・アジア諸地域との国際関係などについて、諸資料から情報を読み取って理解している。 b: 都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
後期中間	近代・現代	9. 恐慌と第二次世界大戦 10. 占領下の日本 11. 高度成長の時代	a: 諸資料から情報を読み取り、国際関係について理解している。 b: 当時の社会が抱えた矛盾と対外政策、国内での諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。
後期期末	現代	12. 激動する世界と日本	a: 冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 b: 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c: 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。

※ 表中の観点について a: 知識・技能, b: 思考・判断・表現, c: 主体的に取り組む態度 である。

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3単位	年次	3年
使用教科書	詳説世界史(山川出版)						
副教材等	新世界史要点ノート(啓隆社出版) グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)						

1 授業及び学習の方法等

- ・現代社会における諸問題との関連付けを意識して学習を行う。
- ・歴史的事実を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士の因果関係や同根性などを関連付けた学習活動を行う。
- ・資料を活用し考察する学習活動を行う。
- ・「問い」を中心に構成した授業を展開する。
- ・資料を活用し考察する学習活動を行う。

2 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	ペーパーテストの知識・技能問題をもとに評価を行う。	ペーパーテストの思考・判断・表現問題やパフォーマンス課題の内容などから総合的に評価する。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	諸地域の歴史的 特質の形成	1.産業革命と環大西洋革命 2.イギリスの優位と欧米国民国家の形成 3.アジア諸地域の動揺	1b:産業資本主義体制の確立とその影響、アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を考察している。 2a:19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。 3a:ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。
		4.帝国主義とアジアの民族運動 5.第一次世界大戦と世界の変容	4b:列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 5c:第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
後期中間	諸地域の結合・ 変容	6.第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 7.冷戦と第三世界の台頭	6a:第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 7a:冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。
後期末	地球世界の課題	8.冷戦の終結と今日の世界	8c:今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3単位	年次	3年
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院)						
副教材等	最新地理図表 GEO(第一学習社)、 地理統計Plus(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)						

1 授業及び学習の方法等

・地理総合での学習を踏まえ、習得した地理的技能や知識を以後の学習に活用し、多面的・多角的に現実を見据えた社会づくりを具体的に構想する。

・地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的で具体的な学習をする。

・各地域の生活文化の網羅・羅列ではなく、主題と事例地域とを適切に組み合わせた学習をする。

・自他の文化を尊重して国際理解を図ることの重要性を学びつつ、地球的課題はSDGsの17の目標とも関連付けて学習する。

・資料に基づいて将来の地域のあるべき姿を議論してまとめたり、その結果を表現する。

2 学習の到達目標

・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。

・系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

・よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

・我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観点の趣旨	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている面と、その粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする面を評価する。よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
評価方法	ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題、知識の概念的な理解を問う問題など)	ペーパーテストの論述だけでなく、レポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現などの多様な活動を集めたものを評価する。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期中間	現代世界の系統地理的考察	1.自然環境 (1)地形 (2)気候 (3)日本の自然環境 (4)地球環境問題 2.資源と産業 (1)農林水産業 (2)食料問題 (3)エネルギー・鉱工業 (4)資源・エネルギー問題 (5)工業 (6)第3次産業	1a:地形, 気候, 生態系などに関わる諸事象の空間的な規則性, 傾向性や, 地球環境問題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。 2a:資源・エネルギーや農業, 工業などに関わる諸事象の空間的な規則性, 傾向性や, 資源・エネルギー, 食料問題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。 1b,2b:場所の特徴や自然及び社会的条件, さらには場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 1c,2c:今後の学習で自然環境や資源と産業で学んだことを, よりよい社会の実現を視野に, そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
前期期末	現代世界の系統地理的考察	3.交通・通信と観光、貿易 (1)交通・通信 (2)観光 (3)貿易と経済圏 4.人口、村落・都市 (1)人口 (2)人口問題 (3)村落と都市 (4)都市・居住問題	3a:交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象の空間的な規則性, 傾向性や, 交通・通信, 観光に関わる問題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。 4a:人口, 都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性, 傾向性や, 人口, 居住・都市問題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。 3b,4b:場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して, 主題を設定し, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 3c,4c:学んだことを実生活に適用しようとしたり, これからの学習に意欲的に取り組もうとしたりしている。
後期中間	現代世界の地誌的考察	5.現代世界の地域区分 6.現代世界の諸地域 (1)中国、韓国、ASEAN諸国、インド (2)西アジアと中央アジア、アフリカ (3)EU諸国 (4)ロシア (5)アメリカ合衆国、ラテンアメリカ (6)オーストラリアとニュージーランド	6a:世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念, 地域区分の意義などについて理解する。 5b:地域の共通点や差異, 分布などに着目して, 主題を設定し, 地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 6a:諸地域に見られる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 6b:地域の結び付き, 構造や変容などに着目して, 主題を設定し, 地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し, 表現する。 5c,6c:これまでの学習を振り返り, 多様な習慣や価値観をもつ人々と国内外で共存するために必要なことについて自分の考えをもとうとしている。

後 期 期 末	こ れ か ら の 現 代 世 界 に お け る 日 本 の 国 土 像	<p>7.生活文化、民族・宗教 (1)衣食住 (2)民族・宗教と民族問題 (3)国家の領域と領土問題</p> <p>8.持続可能な国土像の探究 (1)将来の国土の在り方 (2)持続可能な日本の国土像の探究</p>	<p>7a:生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する</p> <p>8a:我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。</p> <p>8b:地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。</p> <p>7c,8c:世界の人々が共存するために必要なことについて、予想したり課題を見いだそうとしたりしている。</p>
------------------	---	---	---

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。